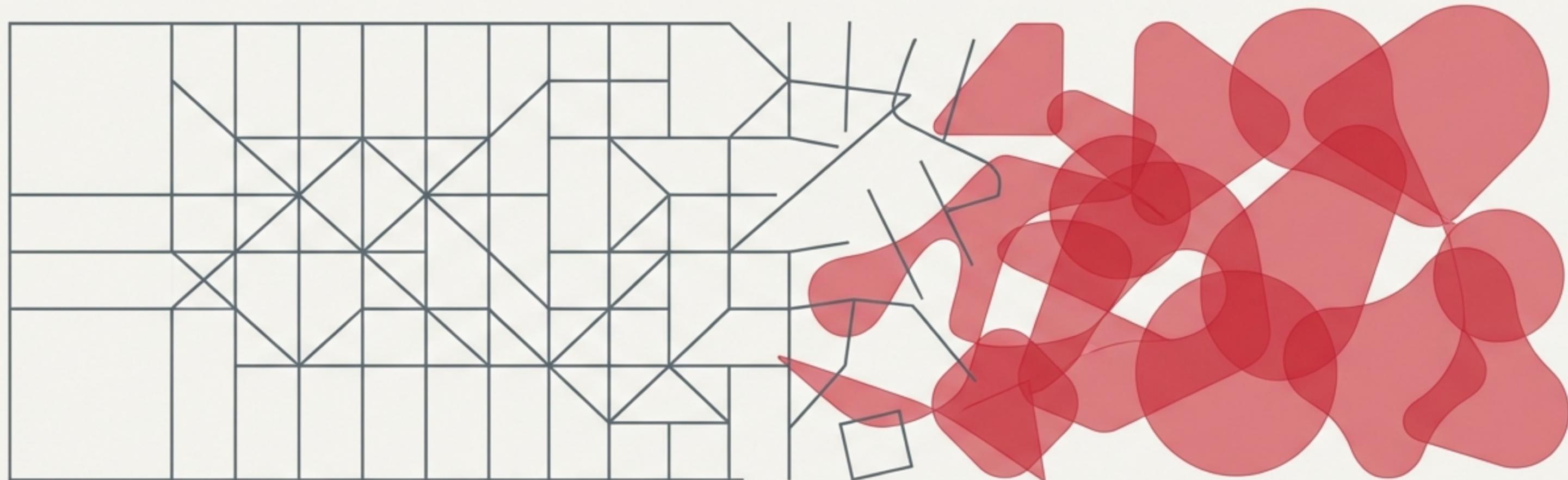
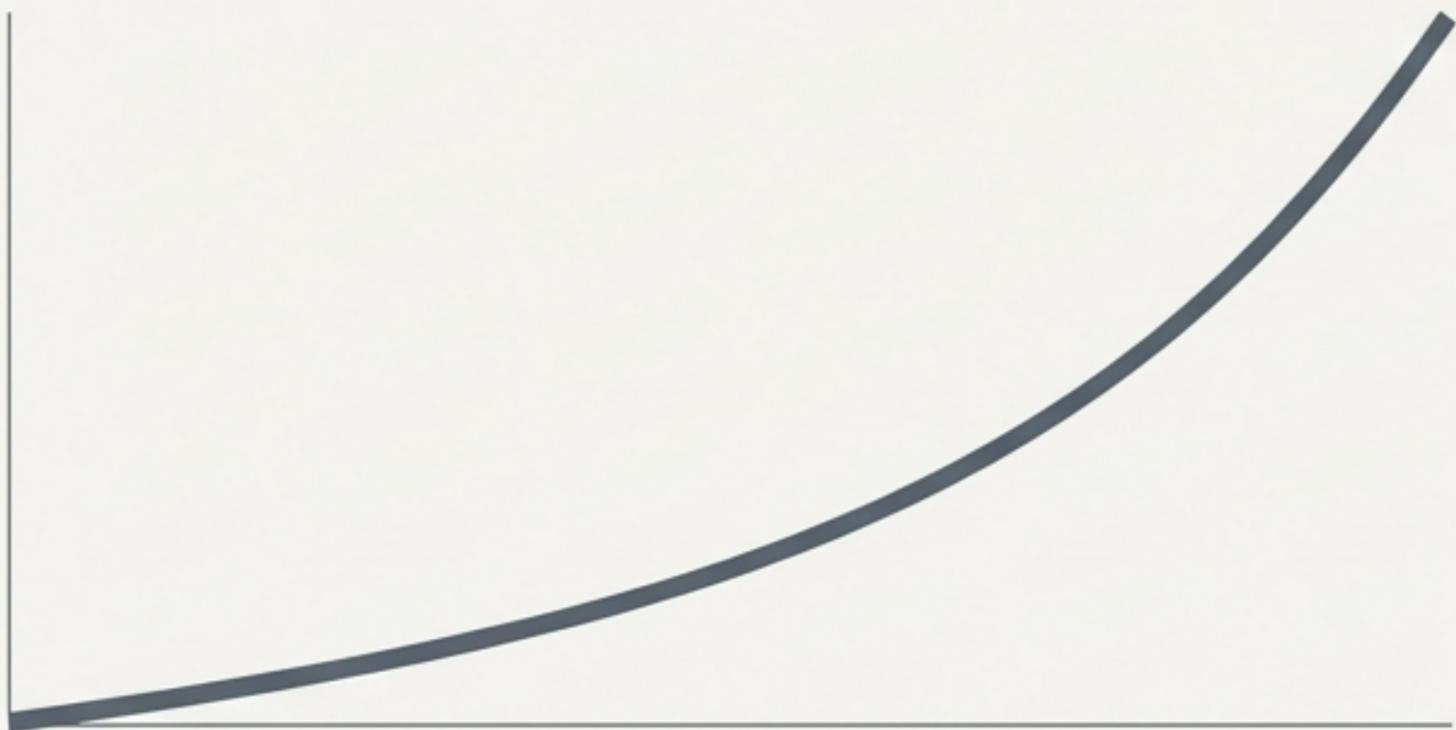


# AGIタイムラインの再評価

ARC-AGI-3が突きつける「知能」の再定義と、  
次なる技術的ブレイクスルーの予測





**84.6%**

### ARC-AGI-2の制覇

公開からわずか11ヶ月。テスト時計算とスケールリングにより、AIは「静的な推論」の壁を突破した。

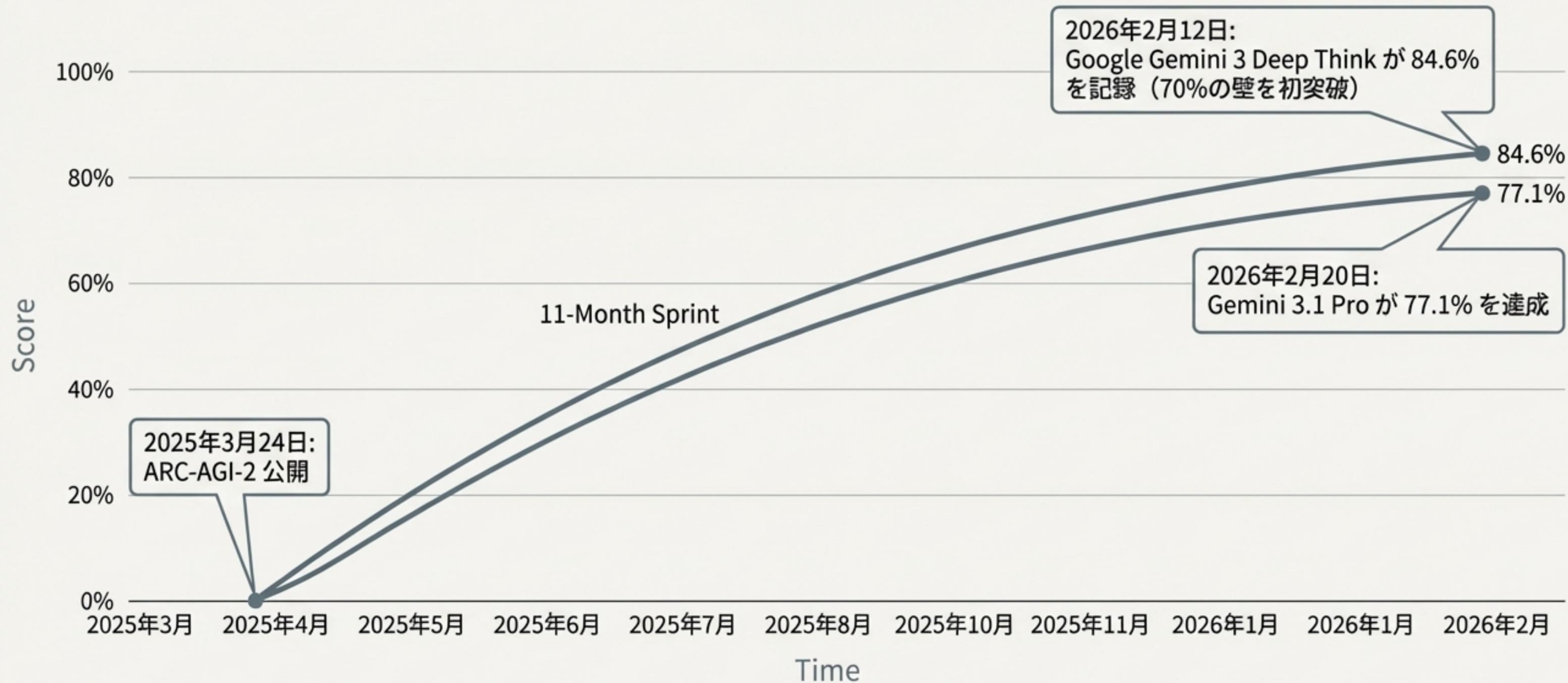
---

**< 1.0%**

### ARC-AGI-3の障壁

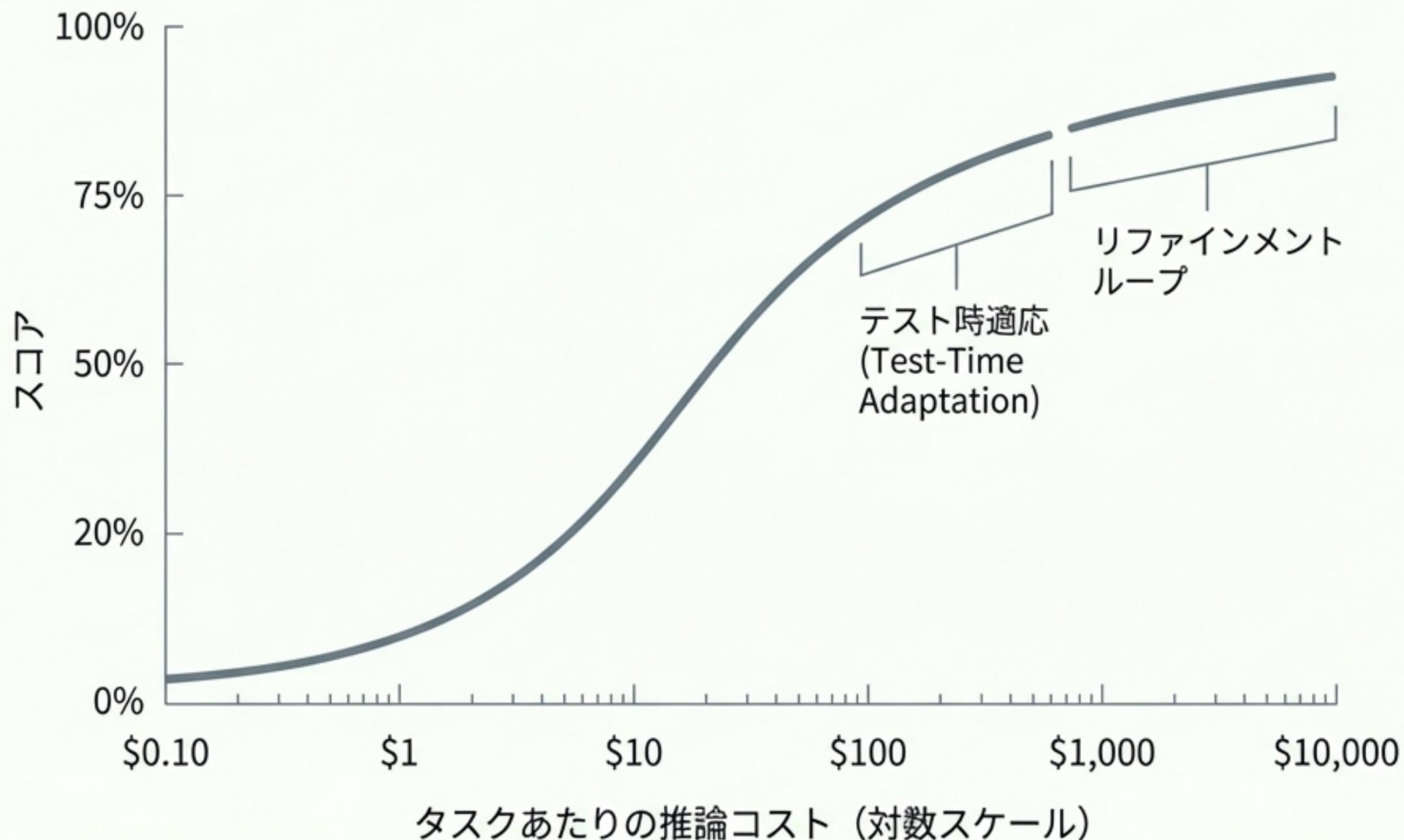
インタラクティブな環境への移行。現在の最強モデル群をもってしても、未知の動的環境における自律行動は全く解けない状況にある。

# The Architecture of Intelligence



**静的なパズル解決能力は、1年足らずで限界点まで到達した。**

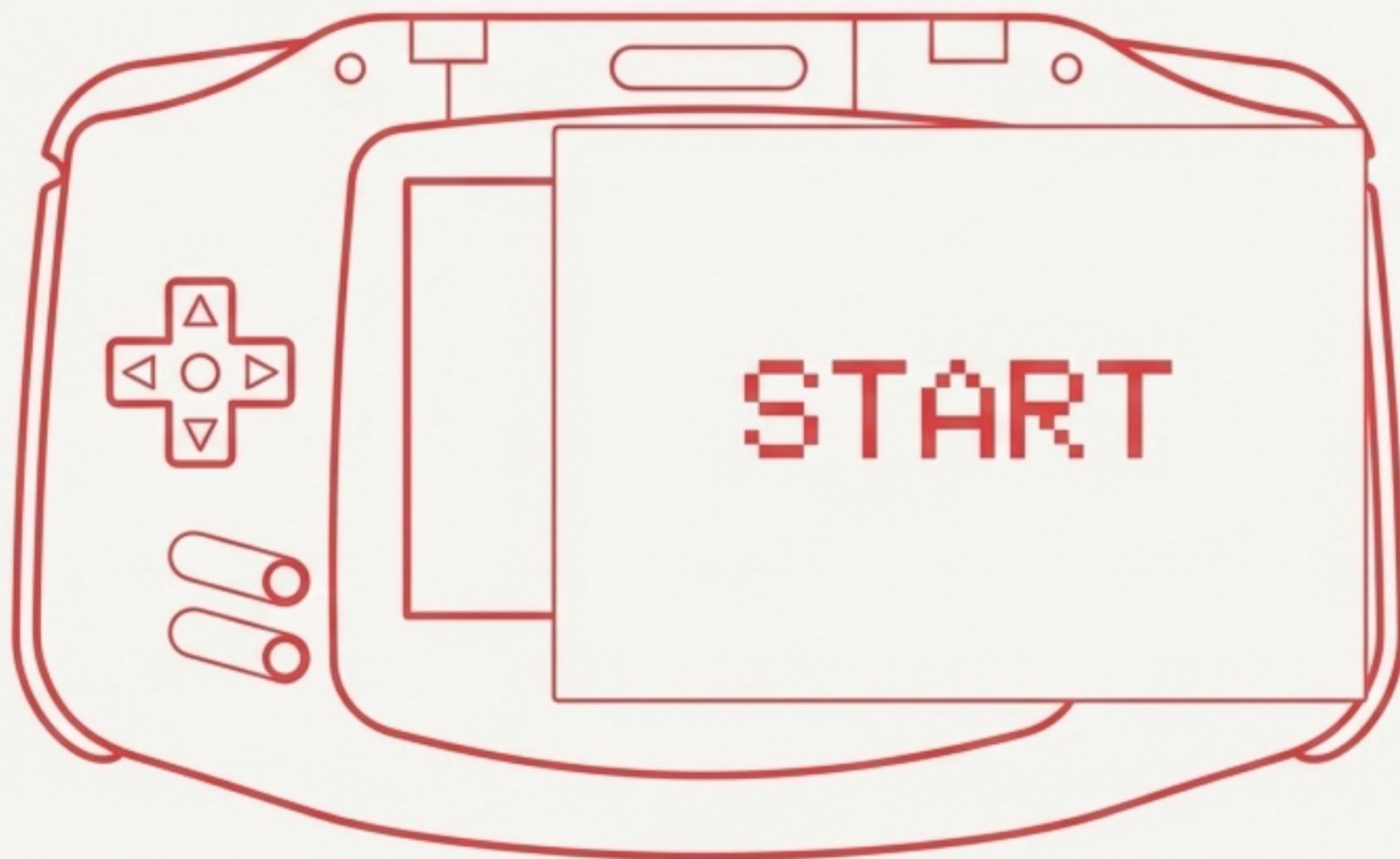
# 成功の力学：計算資源による「受動的な流動性知能」の獲得



- 既知の静的な知識を組み合わせて、時間をかけて解答を探索・改良する能力が劇的に向上。
- 結論：ルールが固定された環境下では、推論能力は計算コストに比例してスケールした。

## 2026年3月25日：知能の定義を「動的エージェント」へと拡張

---

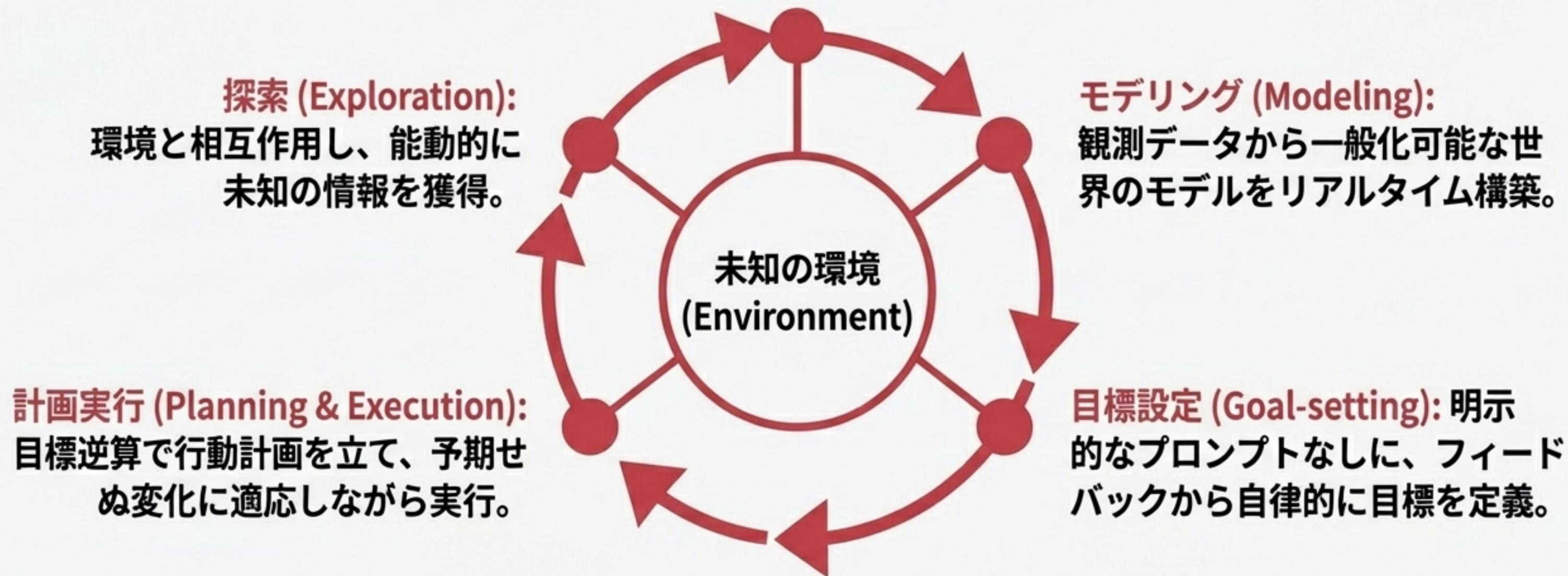


ARC-AGI-3の公開。それは単なる難易度の上昇ではなく、「ルールそのものを発見し、環境に適応する」という全く新しい次元のテストである。既存の最強モデル群もこのパラダイムシフトの前では無力であり、現在のスコアは1%未満に留まっている。

# パラダイムシフトの境界線：受動的計算から能動的適応へ

	ARC-AGI-2	ARC-AGI-3
環境の性質	静的・完全情報（グリッドパズル） Deep Charcoal Noto Sans JP	動的・不完全情報（インタラクティブ環境） Deep Charcoal Noto Sans JP
評価される知能	受動的な流動性知能 Deep Charcoal Noto Sans JP	能動的なエージェント的知能 Deep Charcoal Noto Sans JP
最高スコア	84.6%（約11ヶ月で突破） Deep Charcoal Noto Sans JP/Inter	1%未満（現状の壁） Deep Charcoal Noto Sans JP/Inter
要求される技術	スケーリングとテスト時計算 Deep Charcoal Noto Sans JP	内発的動機付けと継続的オンライン学習 Deep Charcoal Noto Sans JP

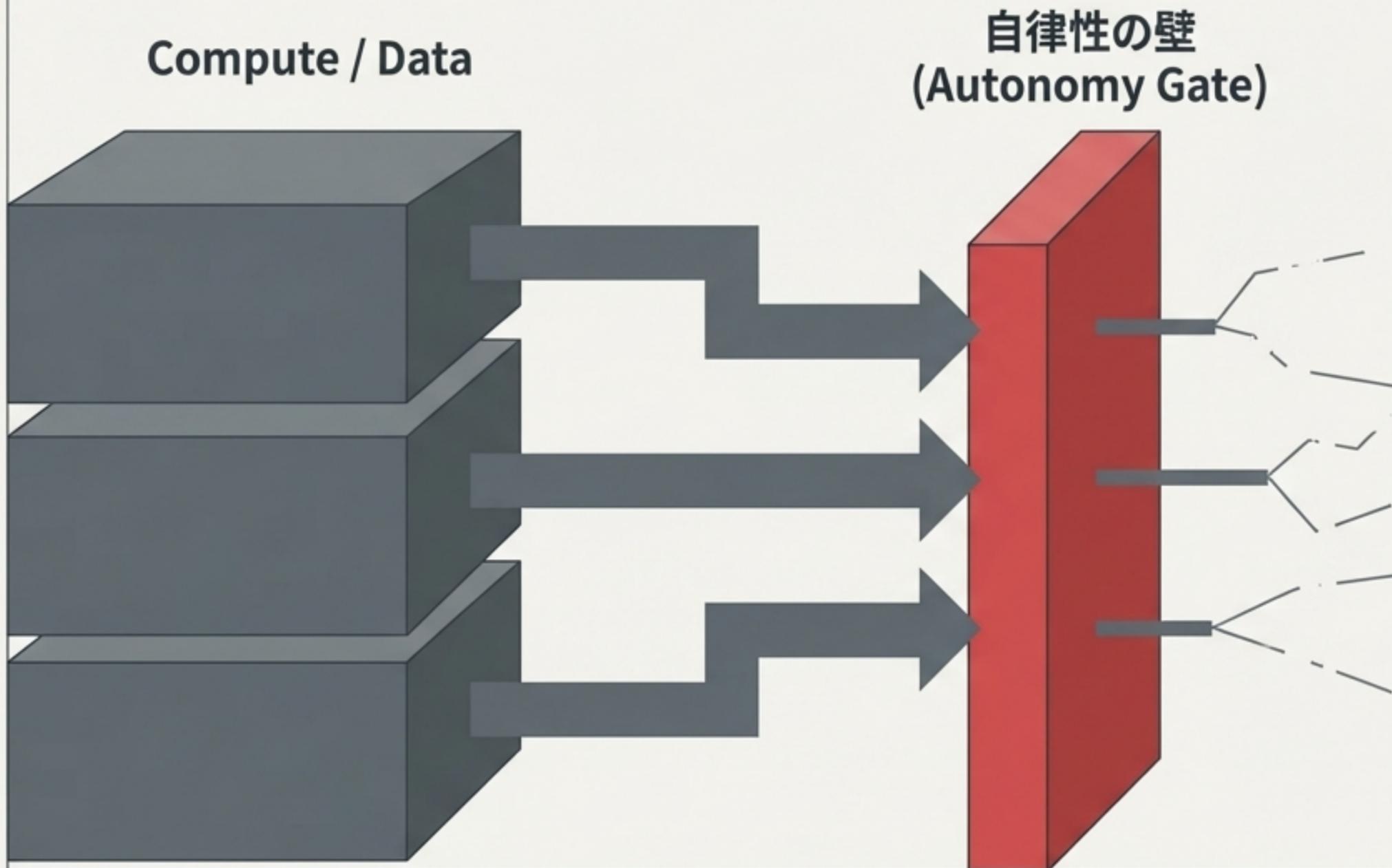
# エージェントック・ループ：能動的適応の連続サイクル



0.5pt

プロンプトに対する「一問一答」のアーキテクチャでは、この連続的な適応サイクルは維持できない。

# スケーリング則が通用しない「構造的な断層」



ARC-AGI-3が要求するのは「ルールの適用」ではなく「ルールの発見」である。

膨大な過去データを事前学習させることや、テスト時に計算時間を増やすアプローチは、自律的な探索戦略や継続的なオンライン学習の代わりにはならない。

基礎的なアーキテクチャのブレークスルーが不可欠である。

# AGI到達タイムラインの再設定



知能の定義が「パズル解決」から「世界との相互作用」へと引き上げられた現在、次なるマイルストーン（70%達成）には最低でも1.5年から2年以上の長期的な技術革新期間が予測される。

## 「北極星」としてのベンチマーク



ARC-AGIは、AIの能力が飽和する前に意図的にハードルを引き上げ、AGIへの真の道筋を照らすよう設計されている。現在の「1%」というスコアはAIの敗北ではなく、次世代のエージェント・アーキテクチャ開発に向けた、最も明確な羅針盤である。